スタートアップガイド

Apple Business Manager

概要

目次

概要
はじめに
構成
リソース

Apple Business Managerは、IT管理者がiPhone、iPad、iPod touch、Apple TV、およびMacをすべて1か所から導入できる、ウェブベースのポータルです。既存のモバイルデバイス管理(MDM)ソリューションとシームレスに連係することで、Apple Business Managerでは、デバイス導入の自動化、アプリケーション購入とコンテンツ配布、社員の管理対象Apple IDの作成を簡単に行うことができます。

Device Enrollment Program(DEP)とVolume Purchase Program(VPP)がApple Business Managerに完全に統合され、Appleのデバイスを導入するために必要なものがすべて1か所に集まりました。2019年12月1日より、統合前のプログラムは使用できなくなります。

デバイス

Apple Business Managerでは、デバイスの自動登録によって、企業が所有するAppleデバイスをすばやく効率的に導入し、デバイスに触れたり準備したりすることなくMDMに登録できます。

- 設定アシスタントのステップを合理化することで、ユーザーの設定プロセスを簡略化できます。社員はアクティベーション後すぐに正しい構成を確実に受け取れるようになります。IT部門はこのプロセスをさらにカスタマイズし、同意文書、企業のブランディング、最新の認証方法を社員に提供できるようになりました。
- 監視モードを使うと、ほかの導入モデルにはないデバイス管理コントロール(削除不可のMDMなど)を利用して、会社所有のデバイスをより高度なレベルで制御できます。
- デバイスの種類に応じてデフォルトのサーバを設定することで、デフォルトのMDMサーバがさらに管理しやすくなります。また、Apple Configurator 2を使用することで、購入方法にかかわらずiPhone、iPad、Apple TVを手動で登録できるようになりました。

コンテンツ

Apple Business Managerでは、コンテンツを簡単に一括購入できます。社員が使用しているのがiPhoneでも、iPadでも、Macでも、フレキシブルでセキュアな配布方法を利用して、すぐに使える優れたコンテンツを提供できます。

- アプリケーションや本、カスタムアプリケーションを一括購入でき、社内で開発したアプリケーションも入手できます。ある場所から別の場所へアプリケーションのライセンスを転送したり、ライセンスを同じ場所の購入担当者間で共有したりできます。また、MDMで使用中のライセンスの数を含め、購入履歴をまとめて一覧表示することも可能です。
- 管理対象デバイスまたは承認済みユーザーにアプリケーションや本を直接配布し、どのコンテンツがどのユーザーやデバイスに割り当てられているかを簡単に把握することができます。管理配布により、組織がアプリケーションの所有権を完全に保持したまま、配布プロセス全体をコントロールできます。デバイスまたはユーザーが必要としなくなったアプリケーションは、割り当てを無効にし、組織内の別のデバイスまたはユーザーに割り当て直すことができます。
- 支払いには、クレジットカードや発注書など複数の方法を利用できます。組織は一定の金額のVolume Credit(利用可能な場合)を現地通貨でAppleまたはApple正規取扱店から購入でき、購入したVolume Creditはアカウントの所有者にストアクレジットとして電子的に届けられます。
- アプリケーションは、そのアプリケーションが利用可能な国なら、どの国のデバイスやユーザーにも配布できるので、複数の国への配布が可能です。デベロッパはApp Storeで通常の公開手続きをするだけで、複数の国でアプリケーションを提供できます。

注意：一部の国と地域では、Apple Business Managerを使って本を購入することができません。国や地域ごとに利用可能な機能と購入方法について詳しくは、support.apple.com/ja-jp/HT207305/を参照してください。

ユーザー

Apple Business Managerでは、組織が社員用のアカウントを作成して管理できます。このアカウントは既存のインフラに統合され、Appleのアプリケーションやサービス、Apple Business Managerへのアクセスを提供します。

- 管理対象Apple IDを作成すれば、社員はAppleのアプリケーションやサービスを使って共同作業できるほか、iCloud Driveを使用する管理対象アプリケーションで業務用データにアクセスできるようになります。管理対象Apple IDは、組織が所有および管理します。
- Apple Business ManagerをMicrosoft Azure Active Directoryに接続して、Federated Authenticationを活用することもできます。対応するAppleデバイスで社員が既存の資格情報を使ってはじめてサインインすると、管理対象Apple IDが自動的に作成されます。
- iOS 13、iPadOS、macOS Catalinaで利用可能になった新しいユーザー登録機能を使うと、社員が所有するデバイスで個人用と管理対象の両方のApple IDを使用することができます。また、どのデバイスでも、管理対象Apple IDをプライマリ（かつ唯一の）Apple IDとして使うこともできます。Appleデバイスにはじめてサインインした後は、管理対象Apple IDでウェブ上のiCloudにアクセスすることもできます。
- 社内のIT部門にその他の役割を割り当て、Apple Business Managerでデバイス、アプリケーション、アカウントを効率的に管理することができます。管理者の役割を使用すると、必要に応じて利用規約に同意したり、離職した人の権限を簡単に移行したりできます。

注意：ユーザー登録機能では、現在iCloud Driveをサポートしていません。管理対象Apple IDがデバイス上の唯一のApple IDである場合にiCloud Driveを使うことができます。

はじめに

Apple Business Managerへの登録

登録は簡単でほんの数分しかかからず、Apple Business Managerをすぐに使い始めることができます。サービスの利用規約に同意していただければ、どの企業でも参加できます。ただし、各組織のプログラム参加資格を決定する権利はAppleにあります。

まずオンラインの登録プロセスを実施し、組織の名称、電話番号、有効なD-U-N-S番号などの情報を入力します。D-U-N-S番号はDun & Bradstreet（D&B）が条件を満たす企業に割り当てた番号で、D&Bデータベースで管理されています。

こちらをクリックして、すでに割り当てられているD-U-N-S番号を調べるか、新しい番号を取得してください。Appleはプログラムに参加する企業をD&Bデータベースと照らし合わせて確認します。入力された情報とD&Bに登録されている情報が一致しない場合は、情報を確認して修正していただくようこちらから連絡いたします。正しい情報を入力したにもかかわらず修正を求められた場合は、D&Bに連絡し、データベースに登録されている情報が最新のものかどうか確認してください。

入力するEメールアドレスは、会社に関連付けられたものである必要があります。Gmail、Yahoo!メールなどの一般向けEメールアドレスは利用できません。このEメールアドレスに関連付けられたアカウントがApple Business Managerの最初の管理者となります。このアカウントを既存のApple IDやその他のAppleサービスと関連付けることはできません。

確認用連絡先として、最初のサイト管理者を確認でき、組織内でApple Business Managerの利用規約を遵守させる権限を持つことを証明できる人の連絡先を入力してください。最初の管理者は、会社を代表して利用規約に同意し、Apple Business Managerの管理を行う追加の管理者の設定も行います。

Appleは、プログラムの登録フォームから送信された情報を確認します。登録を承認する前に、審査プロセスで追加情報が必要になった場合は、こちらからフォームの送信者や確認用連絡先に電話またはEメールで連絡を差し上げることがあります。apple.comドメインからのEメールをすべて許可するように、メールフィルタを設定しておいてください。また、登録手続きをスムーズに進めるため、電話に出られなかった時、またはEメールを受け取った時はすぐに折り返しご連絡ください。

会社の登録が承認されると、確認用連絡先に、最初の管理者を確認するか、管理権限を委任するように求めるEメールが届きます。確認が完了すると、管理者は、最初の管理者の管理対象Apple IDを作成し、Apple Business Managerの契約とその他の利用規約に同意することを求められます。

Apple Business Managerへのアップグレード

以前のDevice Enrollment ProgramまたはVolume Purchase Programを現在も使用している場合は、2019年12月1日より前にApple Business Managerにアップグレードする必要があります。詳しくは、support.apple.com/ja-jp/HT208817を参照してください。

組織がすでにApple Deployment Programに登録されている場合、Apple Deployment Programのエージェントアカウントを使ってdeploy.apple.comにログインし、画面上の指示に従うことで、Apple Business Managerにアップグレードできます。アップグレードには数分しかかかりません。アップグレードすると、組織内のアカウント、MDMサーバ、デバイス、サーバのトークン、デバイスの注文情報などの項目がApple Business Managerに自動的に引き継がれます。

組織で個別のVPPアカウントを複数使用している場合があります。Apple Business Managerにアップグレードした時に含まれていなかったVPP購入担当者がいる場合は、Apple Business Managerにその担当者を招待します。招待方法については、support.apple.com/ja-jp/HT208817を参照してください。

Apple Business Managerにアップグレードした後は、Apple Deployment Programのウェブサイトにはアクセスできなくなります。

構成

Apple Business Managerに組織が登録されると、アカウントの追加、購入情報の入力、役割の割り当てを行い、デバイスとコンテンツの管理を開始できるようになります。

追加管理者の作成と役割の割り当て

最初の管理者がはじめてログインすると、管理者アカウントが1つしかないという警告が表示されます。追加の管理者を作成するには、以下を実行します。

1. サイドバーで「アカウント」をクリックします。
2. ウインドウ上部の「新規アカウントを追加します。」ボタンをクリックします。
3. 姓名、管理対象Apple ID、管理者の役割と場所、Eメールアドレスなどの必須情報を入力します。
4. 必要であればミドルネームも入力します（任意）。
5. ウインドウの右下にある「保存」をクリックします。

Apple Business Managerの各アカウントには、1つまたは複数の役割が割り当てられ、その役割によってアカウントのユーザーが何を実行できるかが決まります。例えば、1つのアカウントに、デバイスマネージャとコンテンツマネージャの両方の役割が割り当てられる場合もあります。

さらに、一部の役割には、ほかの役割に対する管理権限があります。例えば、ユーザマネージャの役割には、コンテンツマネージャの役割に対する管理権限があります。そのため、ユーザマネージャはアプリケーションと本の購入もできます。アカウントを作成して権限を割り当てる時は、事前に役割の割り当てプランを立て、役割の種類を確認しておくことをお勧めします。

Federated Authenticationの設定

Federated Authenticationを使って、Apple Business ManagerをMicrosoft Azure Active Directory（AD）のインスタンスに関連付けることができます。これにより、組織のユーザーはMicrosoft Azure ADのユーザー名とパスワードを管理対象Apple IDとして使用し、Microsoft Azure ADの資格情報を使って、対応するAppleデバイスやウェブ上のiCloudにサインインできるようになります。以下の手順で始めてください。

1. Apple Business Managerで、管理者またはユーザマネージャの役割を持つアカウントでサインインします。
2. 「設定」で「アカウント」を開き、「Federated Authentication」セクションで「編集」をクリックしてから「接続」をクリックします。
3. Microsoft Azure ADのグローバル管理者、アプリケーション管理者、またはクラウドアプリケーション管理者の役割を持つアカウントを使って、「Microsoft Azureにサインイン」を選択します。
4. 使用するドメイン名を入力します。連携に追加できるのは、ほかの組織によってまだ使用されていないドメインのみです。
5. 「Microsoftサインインを開く」を選択して、前の手順で指定したドメインに存在するMicrosoft Azure ADのグローバル管理者、アプリケーション管理者、またはクラウドアプリケーション管理者のアカウントの資格情報を入力します。

Federated Authenticationを設定する際に、Apple Business Managerではドメイン名が既存のApple IDの一部として使用されていないかチェックが行われます。使用するドメインを含むApple IDがすでに使われている場合、そのApple IDユーザー名をユーザーから回収して、組織で再利用することができます。詳しくは、support.apple.com/ja-jp/HT209349を参照してください。

既存の管理対象Apple IDがある場合は、Apple IDの情報を変更し、連携するドメインとユーザー名に一致させることで、Federated Authentication用のIDとして移行することができます。使用するドメインが別の組織の管理対象Apple IDで使われている場合、Appleはそのドメインの所有者を調査し、調査の完了後に通知します。複数の組織にそのドメインの有効な登録がある場合、どの組織もそのドメインと連携できません。

管理者アカウントで正しくサインインを行い、ユーザー名の競合チェックが完了したら、以下の手順でFederated Authenticationを有効にできます。

1. Apple Business Managerで、管理者またはユーザマネージャの役割を持つアカウントでサインインします。
2. サイドバーの下部にある「設定」を選択し、「アカウント」を選択してから、「Federated Authentication」セクションの「編集」を選択します。
3. Apple Business Managerに正常に追加されたドメインのFederated Authenticationを有効にします。

Microsoft Azure ADとのFederated Authenticationを設定する方法について詳しくは、「Apple Business Managerユーザガイド」(support.apple.com/ja-jp/guide/apple-business-manager)を参照してください。

購入情報の入力

デバイスの自動登録を行うには、デバイスの購入方法を確認し、その情報を最新のものに更新する必要があります。そのためには、「デバイス管理の設定」を選択した後、Appleお客様番号または販売店IDを追加します。Appleから直接購入している場合や、プログラムに参加しているApple正規取扱店や通信事業者から購入している場合は、Appleお客様番号と取扱店の販売店IDの両方を入力してください。

- **Appleお客様番号**。Appleから直接ハードウェアまたはソフトウェアを購入すると、購入した組織にアカウント番号が割り当てられます。この番号は、プログラムの対象となる注文やデバイスをApple Business Managerに関連付けるのに必要になります。番号がわからない場合は、所属組織の購入担当者または経理部門にお問い合わせください。組織が複数のAppleお客様番号を持っている場合もあります。それらの番号は、登録の承認後にApple Business Managerに追加できます。
- **組織ID**。プログラムに登録すると、組織IDが割り当てられ、Apple Business Managerの「設定」セクションに表示されます。プログラムに参加しているApple正規取扱店または通信事業者からAppleのデバイスを購入する場合は、デバイスの購入情報をApple Business Managerに登録するため、この番号を取扱店または通信事業者に提示する必要があります。
- **販売店ID**。プログラムに参加しているApple正規取扱店や通信事業者からハードウェアまたはソフトウェアを購入する場合、取扱店の販売店IDを入力する必要があります。この番号がわからない場合は、取扱店にお問い合わせください。複数の取扱店から購入する時は、それぞれの販売店IDを入力してください。また、取扱店がデバイスの購入情報をAppleに提出できるように、組織IDを取扱店に提示する必要があります。販売店IDを入力するだけでは、Apple Business Managerにデバイスは登録されません。

- **Appとブック。**アプリケーションや本を購入できるようにするには、「設定」で「Appとブック」を開きます。表示される手順に従って「Appとブック」の利用規約に同意し、請求情報を更新してください。「Appとブック」の設定では、購入履歴を確認したり、購入したライセンスを別の場所へ再割り当てしたりすることもできます。

デバイス割り当ての管理

Apple Business Managerには、Device Enrollment Program（DEP）の機能がすべて搭載されています。さらに、デバイスの種類に応じてデフォルトのMDMサーバを設定できるようになったため、Macのデフォルトのサーバと、iPhoneとiPadのデフォルトのサーバを別々に設定できます。

MDMソリューションを関連付ける。MDMソリューションを関連付けるには、「設定」＞「デバイス管理の設定」と選択し、MDMサーバへの接続を確立します。Apple Business Managerで一覧表示されているサーバは、組織の物理的なMDMサーバに関連付けられています。サーバはいつでも追加できます。

新しいMDMサーバを追加するには、サーバの名前と認証情報を入力します。各サーバはAppleに認識され、デバイスを管理できるように認証される必要があります。MDMサーバを安全に認証するには、2ステップ確認プロセスを使います。実装について詳しくは、MDMベンダーが提供する文書を参照してください。

デバイスを割り当てる。デバイスは、注文番号またはシリアル番号によってサーバに割り当てることができます。条件を満たすデバイスだけを、プログラムのウェブサイトでMDMサーバに登録できます。

2011年3月1日より後にAppleに直接発注した注文については、注文番号またはシリアル番号で検索できます。プログラムに参加しているApple正規取扱店または通信事業者に注文した場合、さかのぼって検索できる期間は取扱店によって異なります。注文は、取扱店が情報を送信してから24時間以内にApple Business Managerに反映されます。

また、特定の注文に含まれる全デバイスのリストをCSV（カンマ区切り）形式のファイルとしてダウンロードすることもできます。CSVファイルでは、デバイスはシリアル番号別に一覧表示されます。注文フィールドに「利用可能なすべてのアイテム」と入力することで、全デバイスを網羅したリストを取得できます。MDMサーバをデフォルトとして指定することにより、新しく購入したデバイスを自動的にそのMDMサーバに割り当てることができます。

Apple、またはプログラムに参加しているApple正規取扱店、通信事業者以外から購入したデバイスも、Apple Configurator 2を使ってApple Business Managerに追加できます。手動で登録されたデバイスも、ほかの登録デバイスと同様に動作し、監視モードとMDM登録が必須となります。ただし、手動で登録した場合、30日間は、デバイスを登録、監視モード、およびMDMの対象から外すことができる仮登録期間となります。

デバイスを手動で登録する方法の詳細については、support.apple.com/ja-jp/guide/apple-configurator-2/cad99bc2a859/macを参照してください。

注意：組織で管理しているデバイスを売却または紛失した場合や、取扱店に返品した場合、使用をやめる場合は、利用規約に基づいて、Apple Business Managerを使用する管理対象デバイスのリストから、そのデバイスを完全に削除する必要があります。いったんデバイスを削除すると再度追加することができなくなりますが、サポートされているデバイスはApple Configurator 2を用いて手動で登録すれば再び追加できるようになります。

割り当てを確認する。MDMサーバの設定を完了し、デバイスをサーバに割り当てたら、デバイスの割り当てについて以下の項目を確認できます。

- 割り当て日
- 注文番号
- デバイスが割り当てられたMDMサーバの名前
- デバイスの総数（デバイスの種類別）

コンテンツの購入

Apple Business Managerを使用するとアプリケーションを効率的に購入できます。コンテンツを見つけ、購入したい数量を入力したら、VPP Creditまたは法人クレジットカードを使用することですぐに支払いが完了します。

アプリケーションまたは本を検索する。検索の範囲を絞り込むには、メディアの種類をiOSおよびiPadOSアプリケーション、Macアプリケーション、ブックの中から選択します。「カテゴリ」プルダウンメニューをクリックすると、カテゴリ別にアプリケーションや本を探すことができます。iPhoneとiPadの両方に対応しているユニバーサルアプリケーションには、ユニバーサルバッジが付いています。

数量を入力する。購入したいコンテンツを見つけたら、検索結果のリストで名前を選択し、詳細を確認して、購入する数量を入力します。

コンテンツの配布とダウンロード

管理配布では、MDMソリューションまたはApple Configurator 2を使って、アプリケーションと本の配布を管理します。

MDMソリューションを関連付ける。MDMを使用して配布するには、まず、セキュアなトークンを使用して、Apple Business ManagerでMDMソリューションを場所に関連付ける必要があります。トークンをダウンロードするには、「設定」＞「Appとブック」を開き、適切な場所のトークンを選択します。このトークンをMDMサーバにアップロードして、関連付けを完了します。

注意：セキュアなトークンの有効期限は1年間です。

Apple Configurator 2を使用してデバイスおよびコンテンツを管理している場合は、適切なコンテンツマネージャのアカウントを使って「アカウント」メニューでサインインします。iOS 10以降およびmacOS Sierra以降では、この方法で導入するアプリケーションをすべてプリロードしておくことで、ネットワーク帯域幅と時間を節約できます。

MDMサーバに接続されると、アプリケーションや本を様々な方法でデバイスとユーザーに割り当てることができます（アプリケーションの新規割り当てやアプリケーションのアップデートを含む）。この割り当ては、App Storeが無効になっている状態でも実行できます。

アプリケーションをデバイスに割り当てる。管理対象のデバイスおよびコンテンツを組織が完全に制御する必要がある場合、またはユーザー全員がApple IDを取得することが現実的でない場合は、MDMソリューションまたはApple Configurator 2を使用してアプリケーションをデバイスに直接割り当てることができます。アプリケーションがデバイスに割り当てられると、MDMを通じてデバイスにプッシュ配信されるか、Apple Configurator 2によって追加されます。ユーザーを招待する必要はありません。そのデバイスを使用するユーザーは、誰でもアプリケーションにアクセスできます。アプリケーションをユーザーに割り当てるには、デバイス1台につき1つ、管理配布のライセンスが必要です。

アプリケーションや本をユーザーに割り当てる。MDMソリューションを利用して、Eメールまたはプッシュ通知のメッセージでユーザーを招待します。ユーザーが招待を承諾するには、個人のApple IDを使ってデバイスにサインインします。会社がユーザーのApple IDにアプリケーションや本を割り当てることもできますが、その場合、ユーザーのApple IDが公開されることはなく、管理者にも表示されません。ユーザーが招待に同意して利用規約を承諾すると、MDMサーバに接続され、割り当てられたアプリケーションや本をダウンロードできるようになります。また、監視モードのiOSおよびiPadOSデバイスにアプリケーションをバックグラウンドでインストールすることもできます。割り当てられたアプリケーションはユーザーのすべてのデバイスで自動的にダウンロード可能となるので、管理者による追加の操作やコストは必要ありません。アプリケーションと本をユーザーに割り当てるには、ユーザー1人につき1つ、管理配布のライセンスが必要です。

注意：以前にもアプリケーションをユーザーに割り当てたことがある場合、MDMソリューションを利用してユーザーごとの割り当てからデバイスごとの割り当てに移行できます。この場合、デバイスがMDMソリューションに登録されている必要があります。サポートについては、お使いのMDMソリューションのマニュアルを参照してください。

アプリケーションを無効化して割り当て直す。割り当てられたアプリケーションをデバイスまたはユーザーが必要としなくなった場合は、アプリケーションを無効にして、別のデバイスまたはユーザーに割り当て直すことができます。アプリケーションがデバイスではなく、ユーザーに割り当てられている場合、そのユーザーはアプリケーションを個人用に購入できます。iOSまたはiPadOS用のMDMを使って、管理対象アプリケーションとしてアプリケーションが導入された場合、管理者はそのアプリケーションとすべてのデータをただちに削除することもできます。この場合、ユーザーのデバイスからアプリケーションを削除する前に、何らかの通知や猶予期間をユーザーに与えることがベストプラクティスとなります。本は一度配布されると、受け取った人の所有物となり、割り当てを無効にすることも、割り当て直すこともできません。

アプリケーションの割り当てに関する重要な情報

管理者は、対象となるアプリケーションがApp Storeで販売されている国や地域ならどこでも、そのアプリケーションをデバイスに割り当てることができます。例えば、米国のアカウントで購入したアプリケーションが、フランスのApp Storeでも入手可能な場合、そのアプリケーションをフランスのデバイスやユーザーに割り当てることができます。

MDMソリューションでは、iOS 7以降またはmacOS 10.9以降が搭載されたデバイスのユーザーにのみアプリケーションを割り当てできます。Apple IDを使わずにアプリケーションをデバイスに直接割り当てるには、iOS 9以降またはmacOS 10.10以降が必要です。

カスタムアプリケーションの購入と配布

サードパーティデベロッパと協力し、自社のビジネスのニーズに合わせて開発した専用のiOSおよびiPadOSアプリケーションを、App Storeの既製のアプリケーションと同じように組織全体に大規模に配布できます。これにより、iPhoneとiPadの活用範囲がさらに広がります。個人または会社組織のどちらのデベロッパに開発を委託する場合も、社内で独自のアプリケーションを配布する場合も、Apple Business Managerを通じてカスタムアプリケーションを配布することが、管理者にとっても、組織にとっても、最も簡単な方法です。

自社用に開発されたカスタムアプリケーションは、その企業のみが入手でき、ほかの組織は表示も入手もできないようになっています。入手プロセスはセキュアかつ非公開です。カスタムアプリケーションは、お客様のアカウントに提供される前にAppleが審査し、技術的な検証と品質のチェックが行われるため、安心して利用できます。カスタムアプリケーションの価格はデベロッパが設定します。無料に設定することもできます。

よく行われるアプリケーションのカスタマイズとしては、ユーザーインターフェイスに企業のロゴを表示させることや、ビジネスプロセスやワークフローに合わせた独自機能の追加などがあります。デベロッパは、ユーザー企業の環境に合わせた特別な構成や、ビジネスパートナー、販売業者、フランチャイズなどを対象としたカスタム機能を追加することもできます。

デベロッパと協力する。まずはデベロッパに連絡を取ってください。Apple Developer Programに登録し、最新のプログラム使用許諾契約に同意しているデベロッパは、配布用のカスタムアプリケーションをApp Store Connect経由でAppleに提出できます。利用したいデベロッパやビジネスパートナーがApple Developer Programに登録されていない場合は、developer.apple.com/jp/programsで登録するように依頼してください。デベロッパがアプリケーションを開発し、あなたの会社を承認済みの購入者として指定すると、デベロッパはあなたの会社に対し、無料または専用に設定された価格でアプリケーションを提供できるようになります。Apple Business Managerの組織IDか、管理者の管理対象Apple IDをデベロッパに提供してください。

社内のアプリケーションデベロッパと協力する。社内で開発したカスタムアプリケーションの場合も、組織内での配布方法は同じです。この場合、Developer Enterprise Programを使用する必要はなく、アプリケーションの軽量化や分析といったApp Storeの高度な機能も利用できます。また、Developer Enterprise Programと異なり、配布用証明書をアップデートしたり管理する必要もありません。

カスタムアプリケーションを入手する。デベロッパはカスタムアプリケーションとあなたの会社を関連付ける必要があります。ダウンロード可能な状態になった時点で、デベロッパから通知が届きます。これを行うには、組織IDをデベロッパに提供する必要があります。組織IDは「設定」>「登録情報」で確認できます。Apple Business Managerにサインインすると、サイドバーの「コンテンツ」の下に「カスタムApp」セクションが表示されます。カスタムアプリケーションはデベロッパが指定した企業のみ利用可能です。ほかの組織には表示されません。

カスタムアプリケーションに関する重要な情報

- **アプリケーションの審査。**Appleはカスタムアプリケーションとして配布するために提出されたそれぞれのアプリケーションとバージョン(アップデート)について、アプリケーション審査プロセスを実施します。App Storeにあるアプリケーションと同じアプリケーションレビューガイドラインが、カスタムアプリケーションにも適用されます。
- **アプリケーションのセキュリティ。**アプリケーションに機密ビジネスデータが含まれる場合は、アプリケーションに認証メカニズムを組み込むことを検討してください。カスタムアプリケーションそのものはAppleによって保護されるものではなく、アプリケーションに含まれるデータのセキュリティに関する責任はデベロッパが負うことになります。そのためAppleは、アプリケーション内での認証と暗号化に関するiOSおよびiPadOSのベストプラクティスの実施を強く推奨します。セキュアなコーディングのベストプラクティスの詳細は、Developer Libraryを参照してください。
- **アプリケーションの確認。**カスタムアプリケーションがレビューガイドラインに適合していることを確認するために、Appleはアプリケーションにサインインして実際に操作する必要があります。そのため、機密情報や専有ビジネスデータを適切に扱いながらこの必要条件を満たす方法を、デベロッパまたはビジネスパートナーと協力して決定してください。機密情報を保護するには、テストアカウントを作成するか、機密情報を削除したサンプルデータを用意する必要があるかもしれません。

リソース

Apple Business Managerに関する詳細は、「Apple Business Managerユーザガイド」(support.apple.com/ja-jp/guide/apple-business-manager)を参照してください。

Apple Business Managerのさらに詳しい情報については、以下を参照してください。

- Apple Business Manager : business.apple.com
- Apple Business Managerリリースノート : support.apple.com/ja-jp/HT208802
- Apple Business Managerにアップグレードする : support.apple.com/ja-jp/HT208817
- 管理対象Apple IDについて : support.apple.com
- Microsoft Azure ADについて : Microsoft Azure AD
- ビジネス向けITリソース : apple.com/jp/business/
- ビジネスのサポート : support.apple.com/ja-jp/business

© 2019 Apple Inc. All rights reserved. Apple、Appleのロゴ、Apple TV、iPad、iPhone、iTunes、Mac、macOS、およびSafariは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。tvOSはApple Inc.の商標です。App Store、iCloud、iTunes Storeは米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.のサービスマークです。IOSは米国その他の国々におけるCiscoの商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。この資料に記載されているその他の製品名および社名は、帰属する各社の商標である場合があります。製品仕様は予告なく変更される場合があります。2019年10月